

図書館員の四季

変わり行く図書室

豊橋市民病院 春日井泉江

十年一昔と言いますが、私がこの仕事に就いた5年前と比べても図書室は随分と様変わりをしました。最近では、本や雑誌を見ている時間よりもディスプレイを見ている時間のほうが長く、「ここは本当に『図書室』だろうか」と考えてしまうことがあります。

実は、私が初めて参加した研修会は近畿病院図書室協議会の創立20周年記念フォーラムで、そのシンポジウムの中で初めて「インターネット」という言葉を耳にしました。当時は、自分には全く関係のない話だと思っていたことが、現在では当たり前のように身近にあり、情報化の波の早さに改めて驚かされます。

当院でも1年前からインターネットが導入され、図書室で端末の管理をしています。最初は分からないことだらけで、利用者が来る度に「何か質問されるのでは…」とドキドキし、出勤する度に「また動かなくなっているのでは…」とひやひやしたのですが、最近ではやっと扱いにも慣れ、図書室の一部として使いこなせるようになってきました。とは言え、コンピュータに振り回されて1日が過ぎてしまった日など、「こんな物、無くなってしまうばいいのに…」と思うこともしばしばですが。

利用者の求めに応じるままにここまで来てしまいましたが、時代の変化を考えれば図書室の電子化も自然の流れなのでしょう。しかし、できるなら、急がずゆっくりと変わって行きたいと思う今日この頃です。

まだまだ発展途上中ですが…。

岸和田徳洲会病院 喜多村容子

“図書館員の四季ということでエッセイを”というご依頼を頂きまして、何も考えずにお引き受けしてしまったのですが、本職は医局秘書で、兼任という形をとっていますので、図書の事に関してはあまり知識もなく、いつも皆様にご迷惑をおかけしています。

さて、当院はといえば、その名の通り「だんじり祭り」で有名な大阪府岸和田市にありまして、地域に根ざした医療をモットーにした年中無休24時間体制の救急病院であります。豪気で気さくな土地柄なのですが、アカデミックという言葉からは程遠く、もうすぐ創立25周年を迎えるにもかかわらず、図書環境は充実しているとは言い難く、当院において最も発展途上の分野だと言えます。そういった環境のなかでの主な仕事は医学雑誌の管理と製本、文献の相互貸借です。(といって専ら取り寄せ専門ですが...)。一番の悩みは医学雑誌の紛失です。人気雑誌は製本時には半分ぐらいが欠号という事がしばしばです。その他、文献相互貸借の請求用紙にDr.が規定通り記入してくれない、字が読めないetc...。と細かくあげればきりはなく、医局秘書の愚痴になってしまいますが、そんな当院もそろそろ専任の司書をとという動きがあるようで、その時を夢見つつ更なる向上を目指して頑張りますので、よろしく願います。